

# 福島県で何が起こったのか

## 南相馬市の現状から

南相馬市では国道の弓線を軸にしながら移動し、南相馬市職員の福島さんや身内の中川議員から、海岸線での被害状況なども含めていろいろと教えて頂きました。写真は中川議員の「自宅で話を伺っている所です。



◆自治体議員として

5月  
福島県南相馬市の状況

◆**南相馬市について**

放射能は身近な問題といつしとを痛感します。

南相馬市は3の自治体が合併してできた都市で、この区を分ける境界が、ほぼ福島原発からの距離の線と重なっています。30キロのラインは鹿島区と原町



## ◆課題は目の前に



## 避難指示区域の概念

平成25年5月7日現在



区を、20キロのワインは原町区と小高区をほぼ分ける形になっています。金銭的な保証や米の栽培など、いろいろなことが変わってしまう線が、もともとのまちの境界とほぼ重なってしまってます。

## ◆津波について

左にあるのが、鹿島区南海老の磯ノ上地区にある昔の神社跡から撮った写真です。右上が海、左側は水田、道路に沿って集落と松並木があつたということです。ここで、ちょうど親ぐりいのじ夫婦とお話しする機会がありました。

◆放射能からの避難

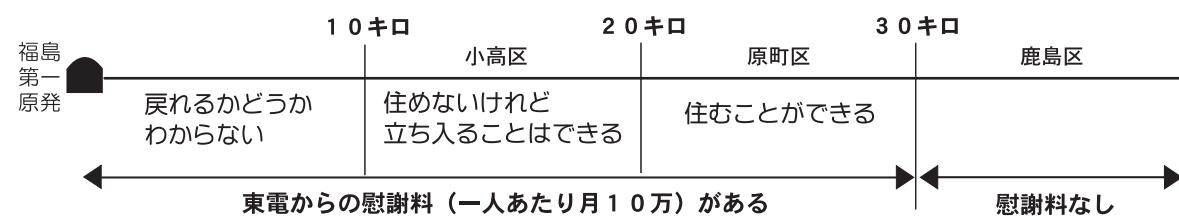
放射能の被害について、現地で短期間過ごした中では、影響を感じることはありません。避難区域の違いについて、匂いがあるだけでなく、その線を越えたり気分が悪くなるわけでもなく、地図では区別されていくけれども、線がそこににあるわけでもないからです。ただ、道路上に検問があつたり、バリケードがあつたりすることと、起つている状況を感じるのです。

左の図はその状況を表したもの

南相馬市では、右の放射線の線量計が希望の家庭に配布されていて、空間線量が計測できます。

## ◆放射能からの避難

### 原発からの距離での違い



小高区の市街地の様子です。早朝のようですが日中です。無人のまちには、泥棒よけの意味も含めての音楽が流れています。駅には自転車がそのまま、クリーニング店やタクシーも、避難したその日のまま、町の時間がすべて止まっています。

ることはできても住むことができないまちが、原発から2キロ圏内にはあるのです。除染という作業をしても、汚染の作業で出るモノを処分する生ごみが見つからない。まちだけ処理しても、今まで暮らしていた生活空間せんぶから放射性物質を取り除くことはできない。

今なお、原発事故は地域を壊し続けているのです。

- ・震災でわかつたのは、国も県もなにもしてくれない
- ・2年経つても、どこから手をつけていいかわからない。
- ・避難所から逃げ出す人もいた。
- ・気を使つたのか、夜中にいなくなつたりした。
- ・除染に同意しない→補償で暮らす→働くなくなってしまう。
- ・お金が人を狂わせる。

お話を聞いていて強く感じたのは、宮城や岩手の津波被災とはまた違った形で、原発事故被災地の被害があることです。被災地での「絆」がよく言われていますが、南相馬で見た原発事故による被災状況は、目に見える被災以上に、地域内住民の「絆」を壊してしまったという点で、非常に深刻な問題といひじります。マニフェスティを崩壊させつゝあるところです。